

## あと一步を踏みだす 勇気をもとう！

谷川 雅邦

年齢を重ねると、いつしか人生の岐路に立たされて、ややもするとその羅針盤が揺らぐ時がある。

誰しも若かりし頃は、何事にも興味が甚大で積極的に行動し、躍動に溢れた若い力と英知が原動力となり、色々な事にも挑戦したものである。

振り返れば・・・失敗を恐れず果敢に激動の時代を生き抜いてきた。ところが、熟年を迎え思考も人生観も変化してゆく中で、当時の活気や覇気の低下が顕著になったのも否めない事実である。

まるで鈍行列車に乗った行くあてのない旅人のような自分にふと気がつき、それは、廃線間近のローカル線のように見える。

でも、たまには、華やかな特急列車に乗り、真新しい景色を探すのだが行く先の構図は、全くもって不鮮明なのである。

押し寄せる年波に溺れ、身体の不自由さを実感し始め、すべてに守りの姿勢が支配的になってしまいがちである。

しかし、体力的な限界はあるものの、気持ちと体力だけは人に負ける事なく前を向いて、あと一步を踏み出す勇気を持ちたいものである。

その事がやがて現状打破に繋がり、新しい発見と創造の意欲を活性化させる起爆剤になるであろう。更に、大事な事は、時を選ばず即座に行動に移して実践する事にその意義がある。

時に、人は人生回顧して、立ち止まり、我が道を振り返る事が少なくないと思うが、私も御多分に漏れず、その機会があった。

最近、竹内まりやの「いのちの歌」にはまっている。ご存じの方もいると思うが生きてゆく事の意味はどこにあるのだろうか！

この世に巡り会えた奇跡、人々の温かさは何よりも宝物だと、泣きたいとき、絶望に嘆く時、いつも寄り添うあなたがいるから。出会った多くの人たち、笑いあった仲間たちすべてに、そしてこの命にありがとう！

この世に生まれてきた事に感謝して、新たな感動と命の大切さがひしひしと伝わり、思わず熱い涙が込み上げてきました。

人生の原点に戻りこれからもこの歌を心の叫びとして、大切に歌って行きたい。これからの残り少ない人生を少しでも実のある豊かなものにするため勇気を持ってあと一步踏み出せば、必ずやきっと目指す目標が、自ずと見えてくるものだ。

そこには、達成感から生まれてくる大きな喜びそして満足感の中で新しい世界が広がるのだ。積み重ねの地味な努力が実を結び、開かずの扉が開かれ、更には描いた夢が具現化するものと信じて止まない。

又、諦めかけていた事にも、新たな視点から創意、工夫の先に明るい光が射してその成果が身近なものとなり、新しく生まれ変わるチャンスがそこにはある。

人生に貪欲に挑み、やれば出来るという自信と勇気を持とう。まさに「成せば成る何事も」の精神が大切である。これからの人生、自分次第でどうにでもなるものだ。自分の生き方をより充実したものとして、老体に鞭を打つまでもなく。

これからも、新しいものへと前向きに取り組みたいと興味津々の心境である。

「挑戦は飽くなき人生への長い道程だ」

